

令和 8 年度 第 1 回酒田市総合教育会議議事録

開催日時	令和 8 年 7 月 10 日（金）10：00～12：50
開催場所	酒田市立亀ヶ崎小学校
出席者	矢口明子市長、赤坂宜紀教育長、神田直弥委員、阿部浩委員、鶴田淑子委員、工藤亜紀子委員
（市長部局）	堀賀泉総務部長、加藤義和企画部長、本間宏樹企画調整課長
（教育委員会事務局）	斎藤正人教育次長、庄司英一教育総務課長、小林正巳教育総務課学区改編・義務教育学校整備主幹、菅原智法学校教育課長、佐藤好博学校教育課指導主幹、深松奈緒子社会教育課長、樋渡隆スポーツ振興課長
（酒田市立亀ヶ崎小学校）	梶原勝校長、加藤ひとみ教頭
協議事項	亀ヶ崎小学校の取組から考える教育活動の質の充実について ・多様な子どもたちに対する学びの在り方について ・子どもの学校生活に対する地域との協働について

1 開 会 （本間企画調整課長）

2 挨拶 （矢口市長・赤坂教育長）

3 学校説明（梶原校長）

4 授業見学

5 協 議 （座長 矢口市長）

（1）亀ヶ崎小学校の取組から考える教育活動の質の充実について

<意見交換：多様な子どもたちに対する学びの在り方について>

【鶴田委員】

本日、学校見学を内容とする本会議に参加できてとてもよかった。授業を拝見し、教員や児童が発する肯定的な言葉がとても印象的であった。

また、授業を始めるときには児童たちも周囲に声をかけており、子どもたちが主役である授業ということが伝わってきて大変感銘を受けた。保健室にいらした児童の様子も少し拝見し、とても生き生きしていた。子どもたちの表情から子どもたち自身がありのままにいられていると感じることができた。

【矢口市長】

いろんな子どもたちの現状を知ってらっしゃる鶴田委員からそのようにおっしゃっていただけるととても心強く、本市の教育は大丈夫だなと思える。

【工藤委員】

全体的に4人1組のグループ学習が多かったと感じる。グループ学習は、わからないところをお互いに聞くことができるなど堅苦しい授業という形ではなく素晴らしいな感じた。

また、5年生の授業では、学級をまたいだコース別学習というかたちで授業が展開されており、それぞれの児童の希望に応じて自分自身でコースを選ぶという取組を行っていた。教員が発する1つの問に対して、自分自身で考え発言しており、教員が一方的に教えるという教育ではなく、自分自身で学びたいものを考えて学んでいくというやり方がとても面白いと思った。

【阿部委員】

グループ学習は、児童同士がわからないところを教え合っていたり、教員役になっていたりなど、自分が子ども時代にはなかった学習方法だと感じた。グループ学習をとおして子どもたちが互いに認め合えることや、自己肯定感を高めることにもつながっているのではないかと感じた。

教員の教え方も、黒板だけでなく投影機やタブレットを使うなど多様化していると感じた。黒板のみで指導している教員や黒板に紙を貼って指導している教員もいるなど、手法はそれぞれだが、児童のためを思って指導していただいていると感じた。

また、コース別学習の1コースでは、答えだけでなく答えまでのプロセスも含めて教員が認めてあげるなど、教科学習だけにとどまらず、教科学習をとおして社会を知り、学ぶことができるよう指導していることに感銘を受けた。

【神田委員】

一番印象に残ったのは、ロール紙やA0判のような大きな紙に教材を印刷し、黒板に貼って授業を展開していたことである。大きい紙に印刷することで、後方の席の児童も見やすく授業に集中でき、直接書き込むことができるため使い勝手も良く、工夫した取組の1つだと感じた。

また、学校説明でも触れられていたとおりタブレットを活用することで、より発展的な学びをしたい場合は自分で進めることが可能になっているなど自分の興味関心や意欲に基づいて学ぶことができ、オンライン授業や保健室登校などでも活用することができようになっている。画一的なやり方を押しつけていくのではなく、それぞれの子どもたちの特性に応じて、子どもたち自身が選べる選択肢を増やし、それを選べるということが素晴らしいと思った。

その中で2点意見させていただく。

1点目は、取組の横展開や縦展開についてである。亀ヶ崎小学校で行っている取組を単に他校で行うことが良いとは限らず、各学校や児童の特性に応じた最適な指導方法等があると思う。ユニバーサルデザインという、普段、自分は色の使い方に気を付ける程度であり、使う色以外にも授業に集中できるような仕掛け等も考えて授業を展開できていないと感じるため、小中高大でうまく接続していくことができれば、それぞれの学校段階においても学びがあると思った。他校の取組を聞くと参考になる点もあるため、教員たちの負担がない形で進められると良いなと感じた。

2点目は、子どもたちに良い教育を行うための教材研究等の専念にむけた教員負担の軽減である。

現在行われている授業展開の手法は、それぞれの児童の特性を踏まえて試行錯誤のうえ生まれたものだと思うが、おそらくゴールではなく日々検討し続けていると思う。このような試行錯誤で生まれた創造的な取組等は非常に大切なことだと思うため、いかに子どもたちにとってプラスになるような教育を行うことができるかなどを考えるための教材研究等に専念できるよう教員の負担軽減は大事であり、負担軽減に向けて検討していく必要があると思った。また、教育委員会として何か協力できることがあるか意見があれば伺っていかなければいけないと感じた。

【矢口市長】

子どもが自分自身で選ぶコース別学習等の取組は素晴らしいと思った。学校説明の中で梶原校長がおっしゃっていた今の子どもたちの印象は優しく気遣いがあり、仲良しということは人間形成として素晴らしく、指導方法等も昔と違い素晴らしい。授業見学等を踏まえたうえで質問したい。

学校教育目標である「志高く夢に向かって」について、小学校の教育としては、その後、中学、高校、大学につながっていくと思うが、小学校段階での手応えは感じているか。わかりやすく言うと、学力が上がることで可能性がひろがるということもあるが、学力面での手応えとして教員はどのように感じているか。

【梶原校長】

私がこの学校に赴任して3か月で、個人としてしっかりと手ごたえを持っているものがあるとは言えない。人間形成という面からいうと、本日の授業見学をとおしてたくさんお褒めの言葉をいただいたように、様々な課題はあるが、学校内だけでなく地域全体で子どもたちをみていきたいと常々思っている。

私が子どもたちに伝えたいことは、今頑張って取り組んでいることは小学校の段階で終わりではなく、必ずこれから生きていくということである。確かに小学校、中学校、高校、大学などと年代があがっていく将来のイメージを持たせることも必要だと思うが、小学生の段階でその話してもピンとこない子どもも多いと思う。具体的な例を挙げながら、いま身に着けていることが必ず将来につながるということを感じさせたい。

【加藤教頭】

社会のなかでは、自分の立場によって正解が1つではないということを教科学習における具体的な例をとおして学べるようにしている。そうすることで、子どもたちにとってもいま取り組んでいることがこれからの将来につながっていくということがわかると思う。そのような取組をとおして子どもたちにたくさんの門戸を広げてあげたいと思っている。教員たちとは、子どもたちにとって選択肢が広がるような授業づくりができれば良いと先を見据えて話しており、さらにそれがいつか夢につながると良いなと思って授業を展開している。

【赤坂教育長】

本日の協議内容である多様な子どもとは、子どもたち一人ひとりのことだと思っている。亀ヶ崎小学校では協働的な学びであるグループ学習が中心に行われているが、協働的な学びをすれば良いのではなく、一人ひとりが学びを得ているかがとても重要なことだと考えている。何においても苦手な子もいれば得意な子もいる。一人ひとり違うからこそ、子どもたち一人ひとりをしっかりと見ていく必要がある。

学校は、苦手な子どもたちをどうやってわかるようにしていくかに力が注がれることが多いが、逆に学校の授業等を簡単と感じており、もっと高いレベルの内容に取り組みたい子どもにとっても学びを深められる時間があることも必要だと思っている。1つの例として、本市教育委員会では、小中学生を対象とした「エキスパート養成数学塾」として、上学年の算数や数学の内容に取り組み、検定を受ける等の事業を展開している。そのように興味を持って学んでいる子どもたちも授業のなかでさらに学びを深めることができるように目を向けていく必要がある。一人ひとり好きなことや興味を持っていることは違い、それらを伸ばしていくことができる学校であるべきであり、子どもたちにとってたくさんの選択肢になるよう種を蒔いていくことが必要だと感じている。

神田委員から御意見のあった横展開については、教育委員会として各学校の取組の良さを発信するとともに研修会などでも情報交換している。各学校の児童の実態や学校規模などが違うため、亀ヶ崎小学校の取組を全学校で展開できるわけではない。いかに児童たちにあわせた教育を各学校が提供できるかが重要となる。児童一人ひとりが1時間の授業のなかで「これがわかるようになった。」「これができるようになった。」と感じられることの積み重ねが、学校に行くことは楽しいと子どもたちが感じられることにつながると思う。授業が学校生活の大半だからこそそのような授業づくりが大事だと思っている。

<意見交換：子どもの学校生活に対する地域との協働について>

【阿部委員】

教育は、学校教員だけで完結するものではないと思う。授業だけでは学ぶことができない部分を教えてあげられるのは我々企業人なのではないかと思っている。

県の事業ではあるが、様々な企業が参加してくださっている「WAKU WAKU WORK」はとても大切な取組だと思っている。子どもたちにとって、日々机に向かって行う授業とは違う体験ができ、知らない大人とのかかわり方で学べることも多いと思う。また、企業としてもこれからの未来を担う子どもたちと関わることで自社のこれからの考えるきっかけになると思う。このような取組が全学校にいきわたるシステムがあっても良いと思う。そうすることで、先生方も学べることも多くあると思っているため、良い取組は続けることが大切だと思う。また、子どもたちが学校の外に出るのではなく企業が学校に来てくれるという手法の取組についても続けてほしい。

【工藤委員】

図書の貸し出しボランティアはどのようにして募集しているのか。

【加藤教頭】

毎年度、春にボランティア募集のチラシを配布し、1年間手伝っていただける方を募集している。毎年度10名程度協力してくださる方がおり、割り振りしながら貸し出しボランティアに携わってくれている。中には4年間続けて協力いただいている方もいる。

【工藤委員】

継続しているからこそ参加したいという地域の方々が aumentando いると思うため、是非他校にもそのように地域の先生などとして入ってくれればと思った。教員だけでは地域の伝統文化をはじめとする地域の宝をすべて教えることは難しいと思うため、地域や地域企業との関わりを積極的にやっていければ良いと思う。地域企業ももっと子どもたちと関わりたいと思っているはずである。市からも市内企業にPRしていただければ、企業側でも何かお手伝いできることがないか考える機会になると思った。

【鶴田委員】

家庭に子どもがいない場合なかなか学校に関わる機会はなく、学校に立ち入るのは選挙程度だと思う。学校と地域が協働していくときに、子どもがいない世帯が学校と関わっていくためには、仕事等を通して学校と関わるのが一番協力しやすいと感じる。既に総合的な学習の時間の授業などで、地域で活躍されている方や伝統文化を継承されている方とつながって何かしら取り組んでいるかもしれないが、子どもたち発信で自分自身が思い浮かべる地域課題等に対して、協力いただける方や企業とマッチングできるようなシステムがあっても良いのかなと思う。

【神田委員】

学校ボランティアの取組は、教員の忙しい時間帯をサポートだけでなく、子どもたちにとっても教員以外の多様な年代の方と交流するとても大切な機会だと思うため、非常に良い取組だと思う。

本市には、何か依頼等があれば協力すると思っている方や企業はたくさんいると思う。各企業等の素晴らしい取組をさらに広げていくためには、各学校が知っている人や企業の範囲で取組を展開するのではなく、人材バンクのような個人や企業などがそれぞれ協力できる内容が記載されているものがあり、それらを活用し地域プロデューサーが各学校と地域をマッチングするという形になれば良いのではないかな。

また、ボランティアに協力する人の広がりという点で質問させていただく。継続的な協力はあるが、参加する人がいつも同じになってしまうと、そこでネットワークが形成されてしまい、新しくボランティアに参加したいという方が入りにくくなってしまわないかと思った。

【社会教育課長】

生涯学習に関しては、指導者や支援ボランティアの登録者を募集しているが、なかなか登録していただけていない状況である。各学校としてやってほしいことや必要な人材が違うため、今後学校訪問や各中学校の学校評議員会のなかで、講師等が必要などの要望があれば、紹介させていただく。また、指導者や支援ボランティアの登録者も多くないため、地域を訪問しながらどのような方が地域にいるか探っていきたい。

【矢口市長】

本市の重点目標の2つ目として市民一人ひとりに「居場所」と「出番」がある社会の実現を掲げている。人口減少は担い手が減るということではあるが、一人ひとりの役割が大きいことは、その分幸せや充実を感じられると思っている。都会では一人ひとりが小さいためそのような実感は持てないと思う。地方に住む幸せのひとつが求められる役割が大きいことであり、押し付けられた役割ではなくやってみたいということが重要である。

学校に地域の方が入ることについても、それは地域の方にとっての出番であると思っている。地域や子ども、学校の役に立っているということはその方にとっても幸せにつながるのだと思う。酒田市全体として「居場所」と「出番」がキーワードであり、その実現に向けて進めていけば人口が減少しても、1人ひとりが幸せを感じながら生活できるまちができるのではないかと考えており、そのひとつとしてスクールコミュニティを進めていきたい。

【赤坂教育長】

子どもたちの発信による企業等とのマッチングということについて、学校評議員会には子どもたちも加わり、子どもたちが考えていることに対して企業が学校評議員の方と一緒に取り組んでいる学校がある。また、横展開として他校にも広がっておりうれしく感じている。

これまでの学校評議員会は、地域の代表や学識経験者など数名で開催していたが、学校側の発想を変えて人数制限を廃止した。それによって、学校として協力してもらいたいことを学校評議員会で投げると様々な委員から関係する方や企業を紹介してもらえるような状況になっている。

神田委員から質問のあった学校ボランティアの広がりについては、ボランティアをやってくださっている方が、ボランティアのやりがいなどを地域で話すことで、やりたいと思う人が広がっていくこともあると思っている。閉ざされたネットワークの中でボランティアをするのではなく、どんどん地域との輪が広がってほしい。

琢成小学校では、アントレプレナーシップというひとつの取組をはじめとして、地域ボランティア 100 人を目標に向けて取り組んでいるが、着実に地域ボランティアの人数が増えてきている。

これまで敷居が高く行けなかった学校に誰でも行けるようになってきていることが重要であり、協力したいという地域の方々を学校は受け入れてくれているということが広まっていくことがとても大事なことだと思う。スクールコミュニティは学校を核とした地域づくりであるため、関わってくれている方がやってよかったと思ってもらえることこそが地域コミュニティの推進につながっていくと思う。

なお、学校評議員会には令和８年度から社会教育課も出席している。それにより、今後は社会教育課が地域とつないでいくことが可能になると思っている。

学校は教員だけで教育できる場ではないため、様々な方から学校に入っていただくことが子どもたちにとっても地域の方にとっても良いことだと思うため、今後さらに推進していきたい。

（２）その他

【矢口市長】

その他何かあるか。梶原校長や加藤教頭などせっくなので何かあるか。

【梶原校長】

本日は、本校の良さや子どもたちの姿をお話いただき感謝申し上げます。本日はいただいた話などを教職員や子どもたちにも返しながら今後も学校運営をしていきたいと思う。

多様な子どもたちへの対応が求められていることについては、新型コロナウイルス感染症拡大の時期あたりから非常に強く感じている。また、家庭の考え方や社会的課題も多様化している。そのようななかで全児童を一律に指導していくことはなかなか難しいと感じており、マンパワーがとても大事になってくると考えている。子どもたちを見守る教職員や大人が周りにどれだけいるかで子ども自身の安心感も変わってくると思っている。そのようななかでも各種支援員を措置していただき感謝申し上げます。しかし、子どもたちの安心や居場所を考えたときに足りているかという不安なところもある。市だけではなく国や県も含めた話かと思うが、子どもたちに寄り添うためには、そもそも子どもたちに寄り添える人材や人数、場所が必要だと思っている。

【矢口市長】

子どもたちを支援してくれる人はだれでも良いということではないと思うが、質が担保された担い手は確保できるのか。

【赤坂教育長】

全員ではないが教員を退職された方が支援員として活躍していただいている。しかし、近年は教員不足や定年延長の影響もあり、教員として継続する方も多い。

【矢口市長】

本日は、実際に学校現場を見るということは大事であり、拝見させていただき感謝申し上げます。また、子どもたちに素晴らしい教育をしていただき併せて感謝申し上げます。

６ 給食試食

７ 閉 会 （本間企画調整課長）